

令和6・7年度 川口市教育委員会研究委嘱

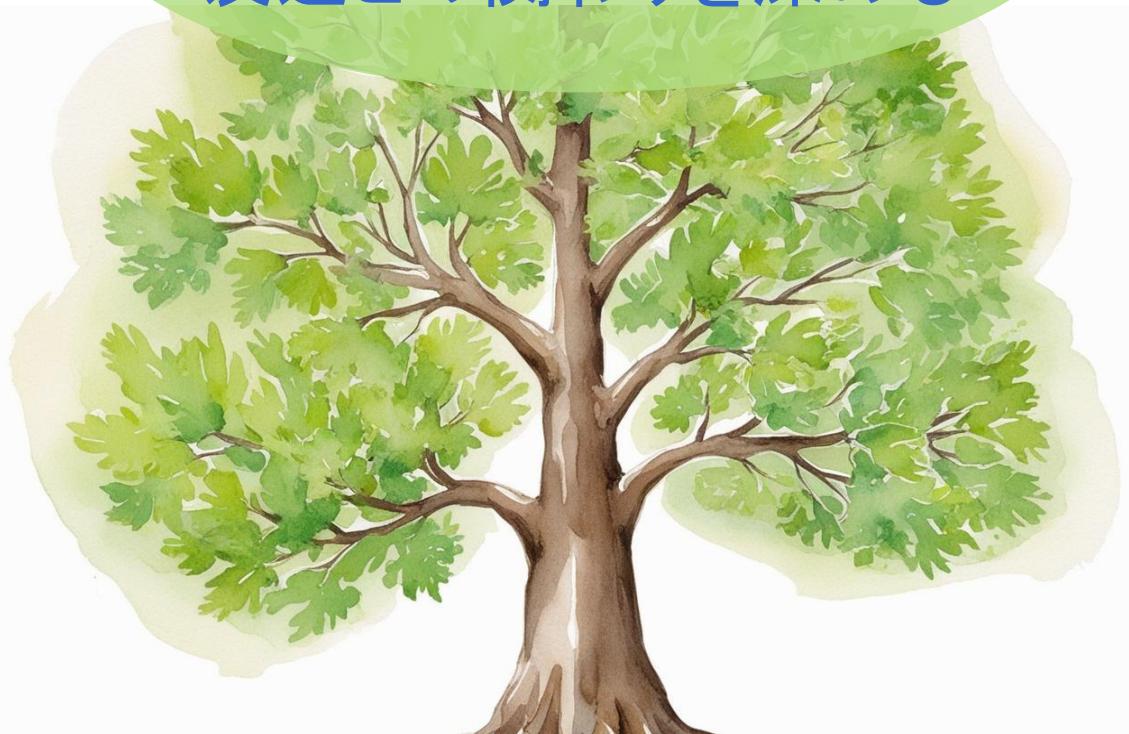
令和6年度 研究紀要(中間報告)



研究主題

友達と過ごす楽しさを味わい

友達との関わりを深める



川口市立南平幼稚園

研究の全体構想

教育目標

明るく元気な子 なかよく遊ぶ子 よく考える子

目指す 幼稚園像

友達との関わりを深め、笑顔あふれる幼稚園

幼稚園 実態

- ・明るく素直で、穏やかな幼児が多い。
- ・興味のあることに自分から取り組み、感じたことを教師に伝える姿が見られる。
- ・集団の中での思いの表し方や友達の思いに耳を傾ける姿には個人差がある。

育てたい 幼稚園像

年少組

気付いたことを安心して表し、友達や先生と一緒に喜んで遊ぶ子

年中組

友達と思いや考えを出し合いながら、相手の気持ちを受け止めて遊ぶ子

年長組

いろいろな友達と思いや考えを受け入れながら、共通の目的をもって遊びや活動を進める子

年少組（3年保育 3歳児）



「これ、貸して」

5月中旬

幼稚園実態

○教師との遊びや声掛けにより、安心感をもって自分のしたい遊びを楽しむ姿が見られる。

ねらい

○好きな遊びや場所を見つけ、安心して過ごす中で教師と一緒に遊ぶことを楽しむ。

Aは聴診器を身に着け、病院ごっこを楽しむ。教師も患者さんになりきって遊びに仲間入りすると、興味をもった幼児が遊びに仲間入りする。次第に聴診器を使いたい幼児が増え、Bも聴診器を使いたい様子でAの隣に座る。教師が「Bも使う」と問い合わせると小さく頷く。互いの幼児に聞こえるように「これ貸して」と動きをつけながら、Bの思いを代弁すると、Bが教師の言葉に合わせて手を重ね、貸してほしいことを表現する。Aは「どうぞ」と聴診器を貸し、その後も互いに気持ちよく遊ぶ姿が見られた。

援助のポイント

- 一人一人が安心して過ごしたり、思いを表したりしていけるように幼児理解を深め、援助していく。
- 友達と楽しく過ごす経験が積み重ねられるように教師が具体的な言葉や動きを見せながら関わっていく。

年中組（3年保育 4歳児）



そっちをおさえて、せーの

「手伝って」

9月上旬

幼児の実態

○友達と誘い合いながら、一緒に遊んだり作ったりすることを楽しむ姿が見られる。

ねらい

○友達と思いを伝え合って、関わり合いながら一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

Aが「おうちつくりたいな、B一緒に作ろう」と誘う。Bは「いいよ」とパネルと一緒に運んでいく。初めの3つははまつたが4つ目がはまらず、「先生、手伝って」と教師に伝える。友達同士で力を合わせられるように、「Bにお願いしてみようよ」と声を掛ける。Aが「B手伝って」と伝えると、BはさっとAの方に行き、「そっちをおさえて、せーの。」と息を合わせて、一緒にはめて作りあげた。その後、他の友達も加わって高くしたり、ベンチや手作りジュースを持って来たりしてごっこ遊びを楽しんだ。

援助のポイント

○友達と思いを伝え合いながら、工夫したり協力したりする楽しさを感じられるように、教師がすぐに手助けするのではなく、見守りながら幼児同士をつなぎ、力を合わせられるような声掛けをする。

年長組（3年保育 5歳児）



4人くらいいると、楽しいよ

「じゃあ、どうする？」

1月下旬

幼児の実態

○クラスの友達と一緒に考えたり、工夫したりしながら活動や遊びを進めることを楽しんでいる。

ねらい

○クラスの友達と力を合わせて、劇遊びをつくり上げる楽しさや満足感を味わう。

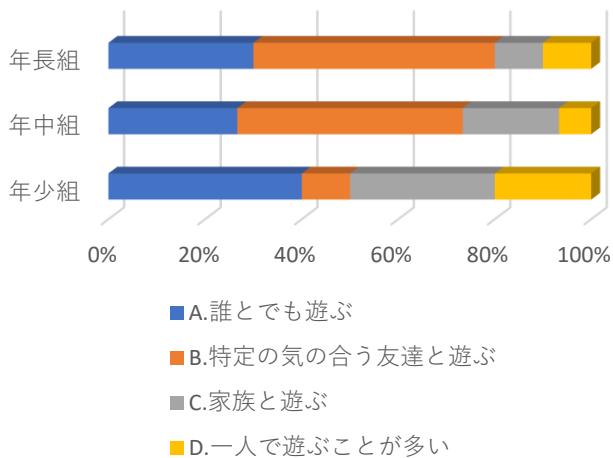
『ブレーメンのおんがくたい』の劇遊びに登場させたい動物について友達と相談を進める。やりたい役を決める中で、「(同じ役の友達が)4人くらいいると楽しいよ」「確かに」と互いの思いや考えを認め合う姿や、「一人は嫌だけど、どうしてもモルモットをやりたい」「そうか、じゃあ、どうする」「私、Aちゃんとやりたいからモルモットになる」と友達の思いを受け止めてクラスみんなで考え合う姿が見られ、試行錯誤したり協力したりして、友達と一緒に劇遊びをつくり上げていくことを楽しんでいた。

援助のポイント

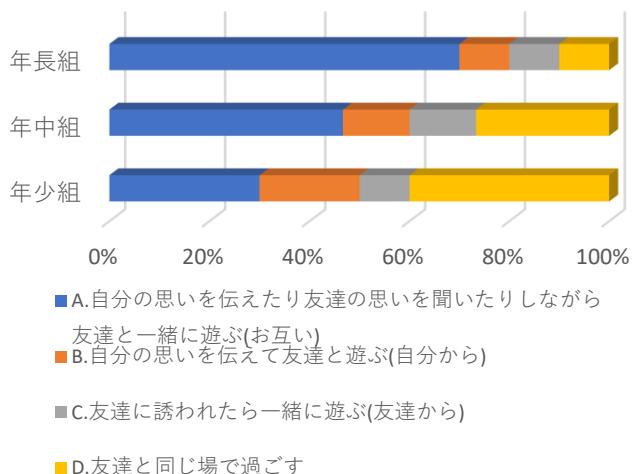
○幼児同士で相談を進めようとする姿を見守ったり、一人一人が思いや考えを出せるようにしたりして友達の思いや考えを受け止め合うことや、取り入れたりするよさを感じられるように援助していく。

「友達との関わり(協同性)」に関する保護者アンケート

誰(友達や家族)と遊んでいますか



どのような様子で友達と遊ぶことが多いですか



研究で分かったこと

○教師が一人一人の思いやよさを受け止め、まわりの幼児に伝える機会を大切にすることで幼児同士が認め合い、思いを伝え合う姿が多く見られるようになってきている。

○幼児が安心感をもって自分の思いを表したり、友達と思いを伝え合う経験を積み重ねたりしていく様に、教師が「協同する幼児の姿」を意識した環境を整えたり、声掛けを工夫したりすることで、友達との関わりが深まってくことが分かった。

来年度に向けて

○発達段階や経験の違いなどにより、思いの伝え方や表現方法、相手の話に耳を傾け、受け入れようとする姿には個人差が大きく見られる。幼児がさらに友達と同じ目的をもって遊ぶ楽しさを味わえるように、教師が幼児理解を深めながら、幼児の思いや考えを適切に読み取つたり幼児同士をつなぐきっかけとなるような援助を見極めたりしていくことが必要である。

ご指導いただいた先生方

川口市教育局限校教育部指導課主幹兼指導係長
川口市教育局限校教育部指導課指導主任
川口市教育局限校教育部指導課指導主任
川口市教育局限校教育部指導課指導主任
川口市教育局限校教育部指導課指導主任
十文字学園女子大学教育人文学部幼児教育学科非常勤講師

小川 敏明 様
西牧 孝子 様
譜久村 航 様
高野 愛 様
早水 久美子 様
桶田 ゆかり 様

研究に携わった職員

園長 柏 奉子
飯塚仁美
平出美香
脇山美穂

主任 筒井佐知子
吉野沙希
窪田裕子
牧野早苗

研修主任 高橋潮音
星佑奈
高島いづみ
畠山弘美